

Glocal Tenri

月刊 グローカル天理 Monthly Bulletin Vol.26 No.3 March 2025

天理大学 おやさと研究所 Oyasato Institute for the Study of Religion, Tenri University



3

CONTENTS

- ・ 巻頭言
AI 時代への戸惑い
／井上 昭洋 1
- ・ 天理教の異文化伝道と「文化」の「翻訳」
(16)
ヨーロッパにおける天理教の伝道の諸相⑤
／加藤 匡人 2
- ・ 台湾の社会と文化—天理教伝道史と災害民族誌 (24)
戦後山名大教会の台湾伝道の復興
／山西 弘朗 3
- ・ イスラームから見た世界 (33)
世界神学とは③—変わりゆく時代と宗教—
／澤井 真 4
- ・ 日本占領期の香港—植民地研究の視点から— (2)
日本による植民地統治の原型：「新領土」台湾の統治
／山本 和行 5
- ・ ニューヨーク通信 (23)
第2次トランプ政権始動
／福井 陽一 6
- ・ 2024 年度公開教学講座要旨：『逸話篇』に学ぶ (10)
第6講：144「天に届く理」
／中西 光一 7
- ・ おやさと研究所ニュース 8
第374回研究報告会（1月20日）／
2024年度おやさと研究所 特別講座
「教学と現代」

巻頭言

AI 時代への戸惑い

おやさと研究所長 井上昭洋 Akihiro Inoue

昔は教祖の墓前で十二下りのておどりを踊る人もいたと前号で述べた。おたすけをする中で、どうしても助かってもらいたいという必死な思いからお墓地に足を運び、教祖の墓前で十二下りを踊る布教師もいたのである。今日でもお墓地でておどりをする人がいるかもしれないが、そもそもそこで踊ることは適切なのだろうか。必死の思いで手を振る人を批判するものではないが、少し考えてみたい。

結論から言えば、教祖の墓地の周辺で十二下りのておどりを踊ることは、一般的には行われておらず、適切ではないだろう。ておどりは通常、教会本部の神殿や各地の教会で行われるものである。しかし、もし特別な事情で教祖の墓地の周辺でておどりを行う必要がある場合は、以下の点に特に注意をする必要がある。まず、「これは、理の歌や。理に合わせて踊るのやで。」という教祖の教えを心に留めること。さらに、ておどりは教祖の教えを具体的に説明したものであると、各下りの意味をしっかりと理解しておくことが大切だ。また、墓地周辺の静寂を乱さないように十分に配慮し、他の参拝者の参拝の妨げにならぬよう注意しないといけない。もちろん、墓地管理者に事前に許可を取る必要があるし、墓前ではなく、墓地周辺の適切な場所を選ぶべきだろう。以上の点に注意しながら、ておどりの本来の意味を尊重し、勤めるべき場所について考えなければならない。また、教会本部で行われる「ておどりまなび」のような公式の場での実施が最も望ましいことを忘れるべきではないと思う。

以上、教祖の墓地で十二下りのておどりを踊ることについての意見を述べてみたが、それを述べたのは私ではなく AI ツールの Perplexity である。私は教祖の墓前で十二下りのておどりを踊る際の注意点を尋ねただけで、それに対する Perplexity の回答に少し手を加えて読みやすくまとめたのが上の段落の文章だ。その回答に同意できる点はあるが、私

が独力で考えたコメントは何一つ入っていない。この回答文は私が少し手を入れたが、この数年間で文章生成 AI ツールは飛躍的な進歩を遂げ、ネット上の膨大なデータを瞬時に収集した上で、人間が書く文章と区別がつかない自然な文章を生成できるようになった。

文章生成 AI には、chatGPT、Gemini、Perplexity や Claude などがある。それぞれ得意分野があって、既に使い分けて活用している人も多いと思う。おそらく 2,000 字程度のエッセイであれば、トピックに関する具体的な情報を入力してどのようなエッセイを書いて欲しいか命じれば、文章作成が得意な AI なら完成原稿を即時に（20 秒程度で）出力してくれるはずだ。一般に読書量の多い人は文章を書くことが上手であると言える。豊富なインプットは優れたアウトプットを保証するのである。AI はそれをネット空間で実現しており、その情報取得能力を考えれば、生身の人間ではとても太刀打ちできそうにない。しかし、報告書や企画書といったビジネス文書はともかく、個人の思いや考えを伝える文章まで AI ツールに頼りきって書いて良いものなのかどうか少し戸惑う。

さて、教祖の墓前で十二下りのておどりを踊っても良いかどうか Claude に質問してみた。以下がその回答（未修正）である。

ておどりはおやさの御存命中からの神の教えを表現する神聖な踊りであり、教会本部や布教所など、定められた場所で行うことが一般的です。教祖の御墓前は参拝と静かな祈りの場とされており、ておどりを踊ることは適切ではないと考えられます。実際の参拝方法について確信が持てない場合は、天理教会本部や所属する教会の先生方に具体的な作法をお尋ねすることをお勧めします。

教会本部や教会の先生方は、この質問について自分で答えを用意しておかねばならぬようだ。まだ人間の方が優れた分野があるようで少しほっとした次第である。